

ITU-R RAG会合等の結果

1. 会合の概要

- ①日程等：平成29年4月26日～28日、スイス(ジュネーブ)
- ②目的：世界無線通信会議(WRC)、研究委員会(SG)などITU-R活動の運営方針について検討し、無線通信局長に助言
- ③参加者：36カ国、無線通信局(BR)等から約95名が参加
日本からは、菅田国周室長、西田SG6議長(NHK)他、計4名が参加



2. 主な結果

(1) 理事会(5/15-25)関係

- ・エジプトが、2019年RA及びWRCのホスト国として正式に招致を表明したと報告があり、理事会で審議されることとなった。
- ・非静止衛星(NGSO)衛星網ファイリングの申請増加・複雑化に伴い、コストリカバリーが不十分であり、過度なBRの負担がバツグログを発生しかねないため、コストリカバリーの決議を見直すことも含めて、理事会に対し本件の取扱方法の助言を求めた。

(2) SGの活動全般

- ・ITU-R勧告の「注記」「脚注」の内容が義務かどうかを明瞭にすべく、フォーマットに注意書きを加える検討を行うことを日本が提案。
- ・イラン等から、本件はRAGではなくRAで議論されるべきとの意見もあったが、次回RAGで引き続き検討するため、日本から適切な対応を求めることとなった。

(3) 衛星調整の電子申請プロジェクト(WRC-15決議908の実施)

- ・衛星調整ファイリングの電子申請化について、日本からITU-Rへの拠出金により支援表明を行うとともに、現行システムの改善点等について提案。
- ・日本の貢献に賛辞が表明され、日本が提案した改善点等について今後BRのプロジェクトで反映されることとなった。

(4) データベース検索システムの構築

- ・2014年3月～本年6月まで、日本からの拠出金により、ITU-R勧告、レポート、決議等が検索可能な検索システムの構築を支援。同機能のウェブサイトがほぼ完成し、今後システムを持続的に運用するための体制の構築等を求める寄書を日本が提出。
- ・日本の貢献に謝意が示され、今後BRにおいて、日本の提案した運用体制の構築等が反映されることとなった。

(5) 次回会合

次回RAG会合は、2018年3月26日～29日にかけて実施される予定。